

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

- ・ 当圏域は、薩南諸島の奄美群島に位置し、関係市町村は奄美大島については、奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町、喜界島は喜界町、徳之島には徳之島町、天城町、伊仙町、沖永良部島には和泊町、知名町、与論島は与論町の合計1市9町2村で、関係漁協は奄美漁業協同組合（令和2年度末組合員数1005名、年間水揚高121トン、1.0億円）、名瀬漁業協同組合（令和2年度末組合員数514名、年間水揚高160トン、1.5億円）、宇検村漁業協同組合（令和2年度末組合員数121名、年間水揚高1トン、0.5千万円）、瀬戸内漁業協同組合（令和2年度末組合員数238名、年間水揚高389トン、2.0億円）、喜界島漁業協同組合（令和2年度末組合員数151名、年間水揚高76トン、6.0千万円）、とくのしま漁業協同組合（令和2年度末組合員数283名、年間水揚高82トン、0.9億円）、沖永良部島漁業協同組合（令和2年度末組合員数303名、年間水揚高134トン、1.1億円）、与論町漁業協同組合（令和2年度末組合員数278名、年間水揚高282トン、2.3億円）の8漁協である。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

- ・ 主な漁業は、群島全域で浮魚礁等を利用した旗流、曳縄、一本釣や瀬物一本釣が営まれている。奄美大島南部の静穏な海域では、クロマグロやカンパチの魚類養殖業が営まれている。また、徳之島でヒトエグサ、奄美大島北部や与論島でモズクといった藻類養殖が営まれているほか、奄美大島や喜界島でクルマエビの養殖が営まれている。
- ・ 主な魚種は、浮魚礁で漁獲されるカツオ、マグロ類のほか、瀬物一本釣で漁獲するアオダイ、ハマダイ、スジアラ等の瀬物類である。

③ 水産物の流通・加工の状況

- ・ 圏域内の流通については、奄美大島名瀬港において漁協が開設する地方卸売市場があるほか、奄美大島の赤木名港、古仁屋漁港、喜界島の湾港、徳之島の亀津漁港、平土野港、沖永良部島の和泊港、与論町の茶花漁港において、漁協が開設・運営す

る産地市場があり、島内消費以外の水産物は、毎日運行している定期貨物フェリー等で鹿児島市内や那覇市内に出荷されている。

- ・ 代表的なブランドとしては、奄美大島と加計呂麻島との間の静穏海域において、養殖されているクロマグロがある。

④ 養殖業の状況

- ・ 芦検漁港では主にクロマグロの養殖が行われており、水揚げ後は民間加工場で裁割、包装後、国内へ出荷される。
- ・ 久慈漁港で主にマダイの養殖が行われており、水揚げ後は民間加工場で裁割、包装後、国内へ出荷される。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

- ・ 圏域の漁業を取り巻く環境は、資源状況の悪化、魚価の低迷、燃油資材等の高騰により、非常に厳しくなっており、組合員数も年々減少し、高齢化の傾向にある。また、離島であるため、鹿児島方面に出荷する水産物の鮮度保持や流通コストに課題がある。

⑥ 水産業の発展のための取組

- ・ スジアラの放流や藻場造成試験など、資源の維持・増大に取り組んでいるほか、直売所・レストラン（せとうち海の駅、みへでいろ市など）の運営、ブランド化（ソデイカ、クロマグロ）による水産物の付加価値向上や6次産業化に取り組んでいる。
- ・ 瀬物類（アオダイ等）やソデイカなどの漁獲物は、島外出荷の取り組みが進められており、船上での活け締め処理や超低酸素水とシャーベット氷等を活用し、鮮度や衛生管理の向上を図っている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

- ・ 生産・流通・加工・販売の経済活動を支える水産基盤整備については、水産資源の維持増大を図るための水産環境整備を計画的に進めるとともに、産地市場の衛生管理対策、生産コストの縮減を図るための施設整備、及び、激甚化する台風等による浸水被害や南海トラフ地震等、切迫する巨大地震に対する漁港漁村の防災・減災対策が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

- ・ 今後、10年程度で圏域内の漁港施設について、統合や廃止、同一漁港内での機能再編の予定は無いが、奄美漁業協同組合が本拠地を奄美市管理港湾である赤木名港から県管理漁港である宇宿漁港へ移転する計画がある。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	外海離島型	設定理由； 良好な漁場に近接する外海に位置する離島で、前進基地として水産物生産の安定かつ強化、及び排他的経済水域等の保全を目指すタイプ
② 圏域範囲	奄美市、大和村、龍郷町、宇検村、瀬戸内町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町	設定理由； 奄美群島管内に属する漁港
③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④ 生産拠点漁港	大熊漁港 (第4種) 古仁屋漁港 (第4種) 早町漁港 (第4種) 知名漁港 (第4種) 宇宿漁港 (第4種)	設定理由； 当該漁港は、荒天時に避難漁船を周辺の漁港から集約するなど、漁船の安全性を確保する。 また、生産拠点漁港として、地震・津波発生時において早期に漁港機能を回復させるため漁港BCPを策定し、漁港利用者の避難対策を確立するなど大規模地震等に備えることとする。
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	3,006
圏域の総漁港数	35
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	6

圏域の登録漁船隻数(隻)	1,106
圏域内での輸出取扱量(トン)	

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	奄美群島
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	クロマグロ、マダイ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）（トン）	955
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額（百万円）	1,328

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

（1）産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・ 台風等の荒天時における静穏な水域が確保されていないことから、防波堤等の外郭施設の整備や、浮桟橋等の整備により安心・安全な漁業活動を確保し、安定的な水産物の供給を図る。

②養殖生産拠点の形成

- ・ 芦検漁港でクロマグロの養殖が行われている。
- ・ 久慈漁港でマダイの養殖が行われている。
- ・ 今後、生産拡大等で漁場環境の改善や流通施設等の整備が必要な場合は積極的な支援を検討していく。

（2）海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・ 当該圏域は、温暖な海域に位置し、周辺海域は好漁場が形成されるが、漁獲対象種の資源状態は低迷しており、漁業生産量が減少している。
- ・ 今後、漁場環境の変化や資源状態の悪化により、漁業生産量が減少する恐れがあることから、水産資源の回復及び増大を図るため、魚礁設置等による漁場の整備、漁場環境の保全や栽培漁業に取り組んでいく。
- ・ 魚礁設置後に漁獲調査や蛸集状況調査等によるモニタリングを実施し、結果を検討して得られた知見を積極的に次の漁場整備に活かし、整備効果の向上を図る。

②災害リスクへの対応力強化

- ・ 当該圏域の生産拠点漁港は、周辺海域に好漁場を有し漁業生産の拠点となっていることから、南海トラフ地震等の大規模地震による被害の早期回復が必要であり、今後、漁港BCPを策定し、漁港利用者の避難対策を確立するなど、大規模

地震等に備えることとする。

- ・ 離島航路を有する古仁屋漁港・早町漁港・知名漁港は、岸壁の耐震・耐津波・耐浪化の整備を行う。
- ・ 施設の老朽化が進み、補修・更新時期を迎える施設が多くなることから、「事後保全」から「予防保全」型への転換を図り、新技術の積極的な活用により、これまで以上にライフサイクルコストの縮減と予算の平準化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁村地域では、高齢化・過疎化が進行し、浜の活力の低下が懸念されることから、地域が一体となったブルー・ツーリズムの推進体制づくりを促進し、農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを行う。

また、都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信するとともに、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

高齢化・過疎化により漁業就業者数は減少傾向であることから、漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

また、漁業就業者等の労働環境の改善、利便性の向上を図る施設整備を行う。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
宇宿	流通機能強化	交付金	宇宿	4	
花天	流通機能強化	交付金	花天	1	

・ 宇宿漁港

漁協機能移転に伴い荷さばき所、製氷・冷蔵施設等の整備を図る。

浮棧橋の整備により就労環境の改善を図る。

・ 花天漁港

外郭施設の整備により港内静穏度の向上を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
奄美	資源管理	水産環境

・奄美海域

魚礁設置等により、水産資源の回復及び増大を図る。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
古仁屋	安心・安全	機能強化	古仁屋	4	
早町	安心・安全	機能強化	早町	4	
知名	安心・安全	機能強化	知名	4	
宇宿	安心・安全	機能強化	宇宿	4	
宇宿	予防保全	機能保全	宇宿	4	
大熊	予防保全	機能保全	大熊	4	
古仁屋	予防保全	機能保全	古仁屋	4	
早町	予防保全	機能保全	早町	4	
知名	予防保全	機能保全	知名	4	
喜瀬	予防保全	機能保全	喜瀬	1	
小宿	予防保全	機能保全	小宿	1	
小湊(三方)	予防保全	機能保全	小湊(三方)	1	
龍郷	予防保全	機能保全	龍郷	1	
安木屋場	予防保全	機能保全	安木屋場	1	
名音	予防保全	機能保全	名音	1	
今里	予防保全	機能保全	今里	1	
宇検	予防保全	機能保全	宇検	1	
芦検	予防保全	機能保全	芦検	1	
久慈	予防保全	機能保全	久慈	1	
西古見	予防保全	機能保全	西古見	1	

花天	予防保全	機能保全	花天	1	
実久	予防保全	機能保全	実久	1	
芝	予防保全	機能保全	芝	1	
諸鈍	予防保全	機能保全	諸鈍	1	
秋徳	予防保全	機能保全	秋徳	1	
荒木	予防保全	機能保全	荒木	1	
亀津	予防保全	機能保全	亀津	1	
松原	予防保全	機能保全	松原	1	
前泊	予防保全	機能保全	前泊	1	
内喜名	予防保全	機能保全	内喜名	1	
茶花	予防保全	機能保全	茶花	1	
麦生	予防保全	機能保全	麦生	1	
和瀬	予防保全	機能保全	和瀬	1	
崎原	予防保全	機能保全	崎原	1	
秋名	予防保全	機能保全	秋名	1	
今里	予防保全	機能保全	今里	1	
平田	予防保全	機能保全	平田	1	
山	予防保全	機能保全	山	1	
沖泊	予防保全	機能保全	沖泊	1	

・古仁屋漁港外3漁港

機能診断や診断結果を基に外郭施設や係留施設の耐震・耐浪・耐津波化を進める。

・宇宿漁港外34漁港

持続可能なインフラ管理の推進として機能保全計画に基づき漁港施設の機能回復を図る。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域	地域 活性化	ブルー・ツーリズム PR推進事業	全域		

・圏域漁港全域

農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを推進。

都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信すると共に、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域		かごんま漁師育成 推進	全域		
全域		漁業生産の担い手育成 確保事業	全域		

・圏域漁港全域

漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

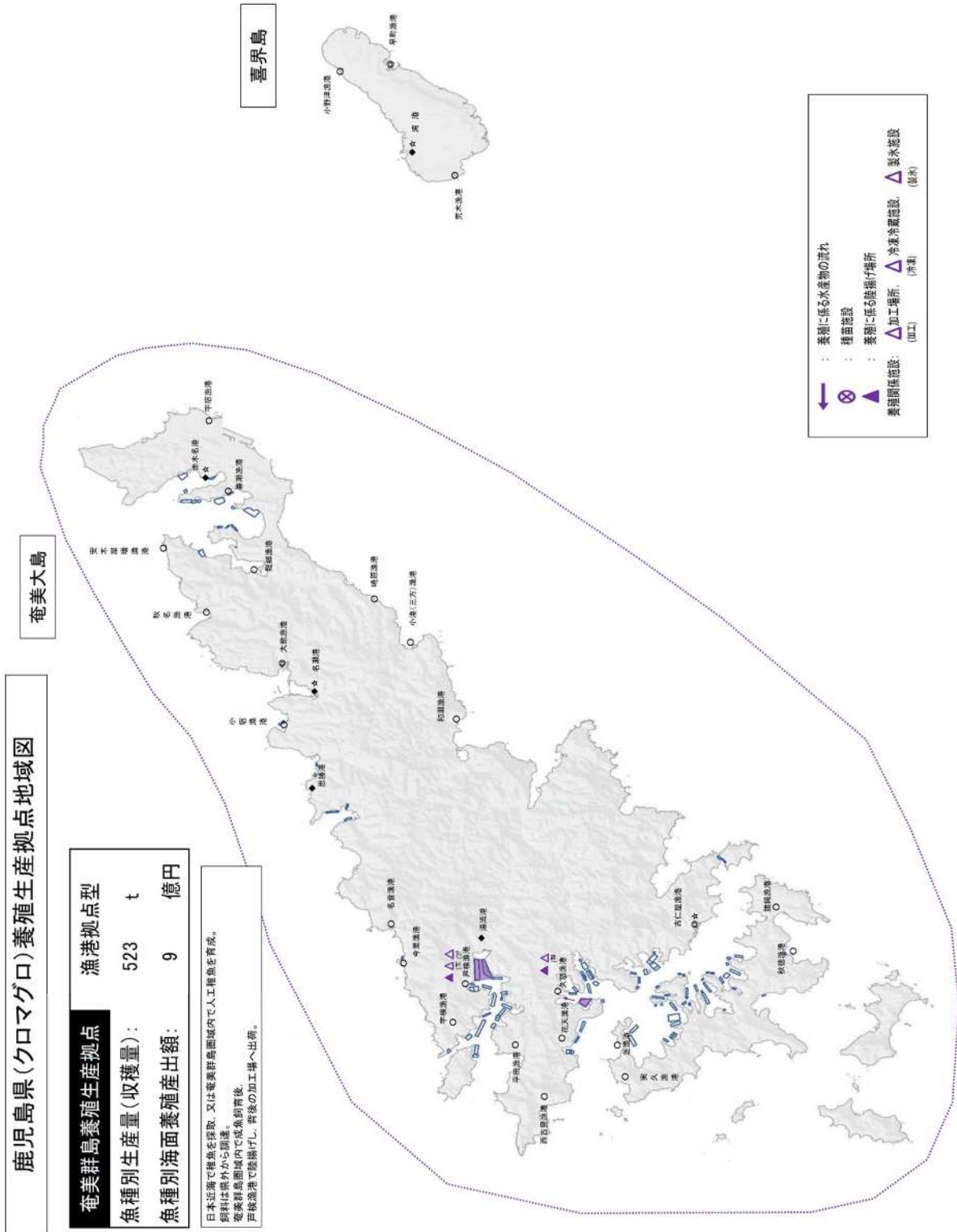
4. 環境への配慮事項

- ・当該圏域は、アマミノクロウサギなどの稀少野生動植物が生息・生育する亜熱帯の森や美しいサンゴ礁などがあり、世界自然遺産登録にむけ新たな保護地域も受ける必要があることから国立公園指定に向けた取組が進められている。
- ・漁港漁場の計画にあたっては、景観への影響や、既存の藻場や海底地形、潮流などに大きな影響を与えないよう配慮する。
- ・漁港漁場の計画にあたっては、特に景観に対して配慮するとともに、サンゴ礁や海底地形、潮流などに大きな影響を与えないようにする。

5. 水産物流通圏域図

別添、「鹿児島県 水産物流通圏域図」

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図



鹿児島県(マダイ)養殖生産拠点地域図

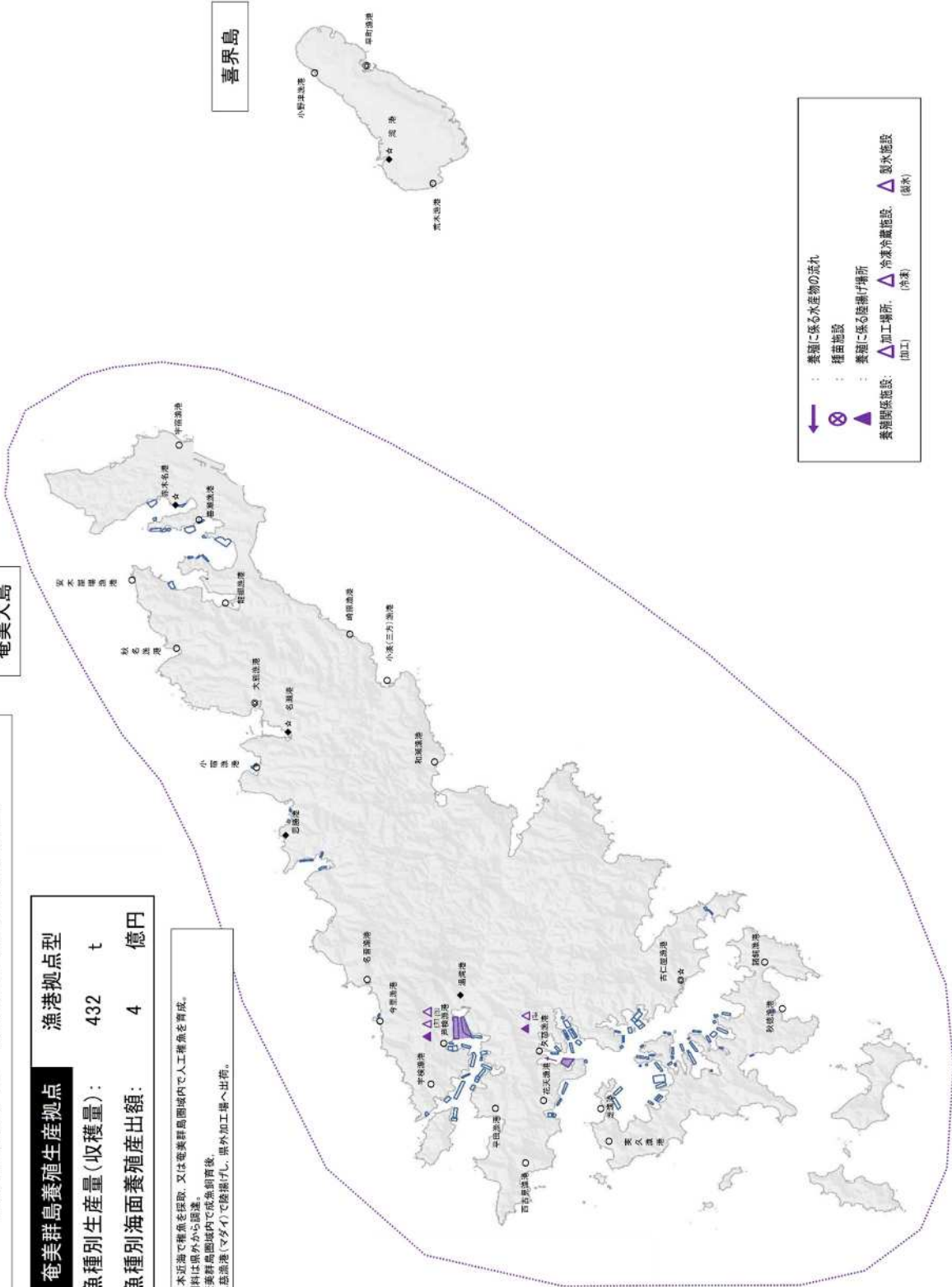
奄美大島

奄美群島養殖生産拠点

漁港拠点型

魚種別生産量(收穫量):	432	t
魚種別海面養殖生産額:	4	億円

日本近海で稚魚を採取、又は奄美群島圏域内で人工稚魚を育成。
 飼料は県外から調達。
 奄美群島圏域内で成魚飼育後、
 久慈漁港(マダイ)で陸揚げし、県外加工場へ出荷。

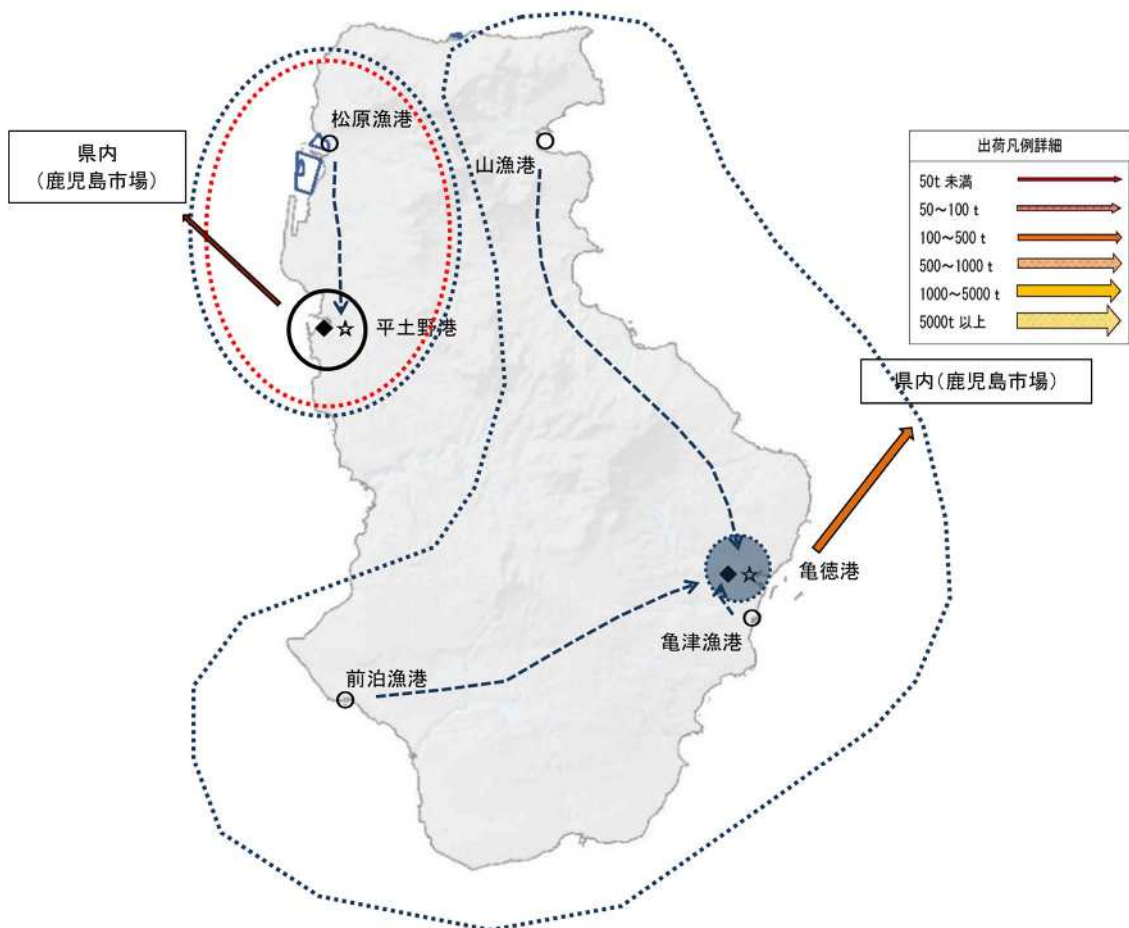


喜界島



- ← : 養殖に係る水産物の流れ
- ⊗ : 稚魚施設
- ⊕ : 養殖に係る産卵場
- 養殖関係施設: △加工場(加工) △冷凍冷蔵施設(冷凍) △製氷施設(製氷)

奄美群島圏域(徳之島)

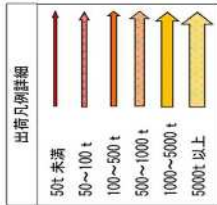
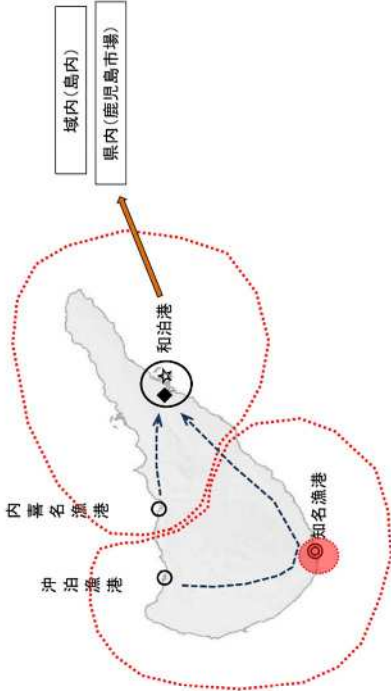


●：流通拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港）
 ◎：生産拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港）
 ○：一般漁港
 ■：港湾（漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ）
 ☆：産地市場
 漁業：主な魚種
 (主な漁業種が、(巻き網・底引き網等))
 (巻網・底引き網等の場合は示す)
 ←：水産物集約（船舶陸揚げ）
 ←：水産物集約（陸送）
 →：加工場・消費地への出荷
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等が
 できる限り示す。)
 ←：養殖に係る水産物の流れ
 養殖漁場

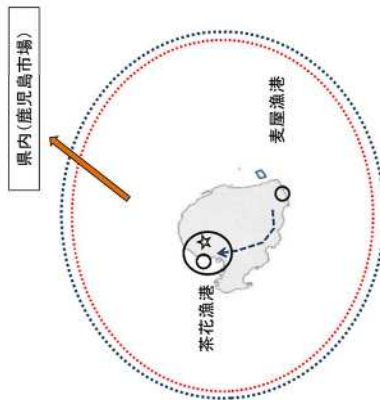
①集・出荷機能
 ○：現状の連携範囲
 ●：現状の中心の漁港
 ②準備機能
 ○：現状の連携範囲
 ●：現状の機能を有する漁港
 ③増養殖・營養強化機能
 ○：現状の連携範囲
 ●：現状の中心の漁港
 ④海業振興機能
 ○：現状の連携範囲
 ●：現状の中心の漁港
 ⑤防災・減災、避難機能
 ○：現状の連携範囲
 ●：現状の中心の漁港
 (※全機能共通) 将来的な連携範囲
 ○：5年以内を目途に実施する連携範囲
 ●：5年以内を目途に実施する中心の漁港
 ○：10年以内を目途に実施する連携範囲
 ●：10年以内を目途に実施する中心の漁港

奄美群島圏域
(沖永良部島・与論島)

沖永良部島



与論島



8. その他参考となる資料

